



しりべし*i* ネットニュース

<http://www.shiribeshi-i.net/>

平成16年2月
しりべしネット&iセンター連絡会議

しりべしネット&iセンター 来年度も継続！！

後志観光連盟が実施主体に

第2回「広域ドライブ観光に関する総合的提案内システムの実験」検討部会（略称：検討部会）が1月9日、後志観光連盟会員機関（市町村、観光協会）の代表、国や北海道など実験協力機関・団体の参加を得て開催されました。第2回目となった今回、平成15年度の実験経過と平成16年度以降の運用方針についての説明が行われ、来年度は後志観光連盟が実施主体となって後志の取り組みを継続していくことが了承されました。

平成15年度の実験経過報告

検討部会では、まず実験WGから、本年度の各実験項目（iセンターの設置運用、これらを支える地域体制づくり、官民協働体制の構築、実験の効果測定）の経過報告と本年度末までに目指す実験項目の最終形とそれに必要な今後の取り組み内容、官民協働実験（冬道実験：内面に詳細）についての説明が行われました。

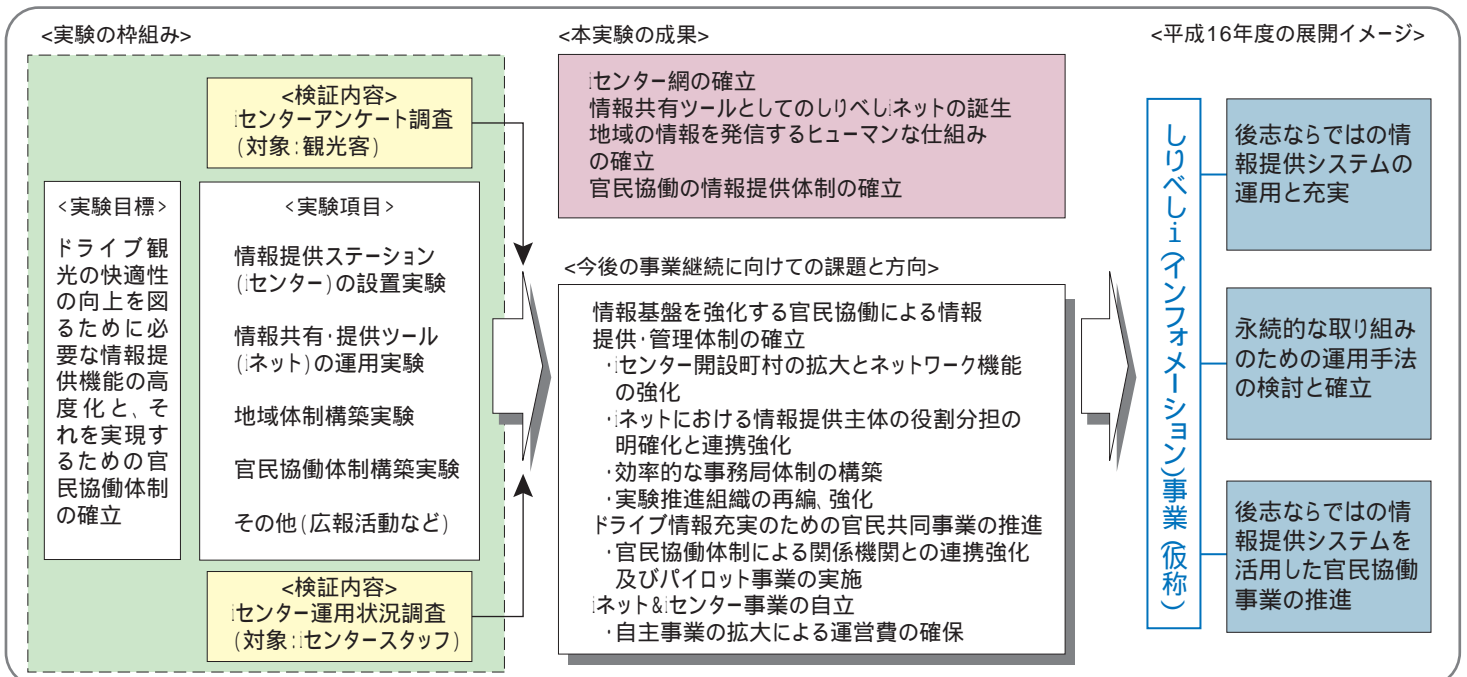
また、幹事会リーダーからは、「しりべしネットのアクセス件数が実験期間中の約半年間で13万件にも達しているが、これは後志20市町村が一体となって地域の新鮮な情報を発信したこと、これと併せて7つのiセンターからは案内員がフェイス・ツー・フェイスでホットな情報を提供したこと、さらに協力機関の積極的なサポートが得られたこと、の成果の顕れであり、このようにして築き上げられたヒューマンな関係を礎にして、来年度以降もネットとiセンターをさらに発展させていきたい」といった意見がだされました。



平成16年度の運用方針

平成15年度の実験経過報告を踏まえ、実験コーディネーターからは、実験を通じて構築された成果と実験期間中では検討・検証が不十分な項目、今後の事業継続に向けての方向についての説明が行われました。これを受けて事務局からは、平成16年度の事業実施イメージを提案し、了承されました。

本実験の窓口である小樽開発建設部からは、「フォローアップという視点から来年度も何らかの形で支援していきたいと考えているが、そのためには、推進経費のスリム化はもちろんのこと、国・北海道・市町村の役割分担など後志20市町村全体で知恵を出し合い、持続的な推進に向けた仕組みづくりを考える必要がある」、また出席者からは、「本実験は後志20市町村全体の事業として推進してきたが、各市町村により実験に対する温度差がある。今後はいかにして地域間の温度差を縮めていくかが重要なキーポイントとなる」など、来年度に向けた課題について意見があげられました。



冬道実験が始まりました

2月9日、冬期間の安全・快適なドライブ旅行をサポートする官民協働実験(冬道実験)が始まりました。この実験は、平成15年9月に行った「関係協力機関連絡会議」において、北海道開発土木研究所から提案のあったもので、本年度の夏期実験(平成15年7月20日～11月3日)を通じて構築してきた情報収集・発信の仕組みを活用し、後志ならではの道路情報を発信しようとする試みです。なお、冬道実験は、開発土木研究所が実施する「官民連携による冬期情報収集・提供実験 しりべしe街道」と連携して行っています。

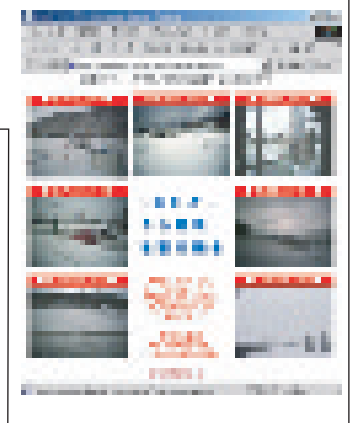
また、冬道実験の開始とあわせて、しりべしネットのTOP画面がリニューアルしました。冬道情報といっしょに、ぜひ一度チェックしてみよう。後志の道路情報が一目でわかり、とても便利です。ご家族・ご友人にもPRをよろしくお願いします。

しりべしネットTOP画面



LIVEカメラ映像

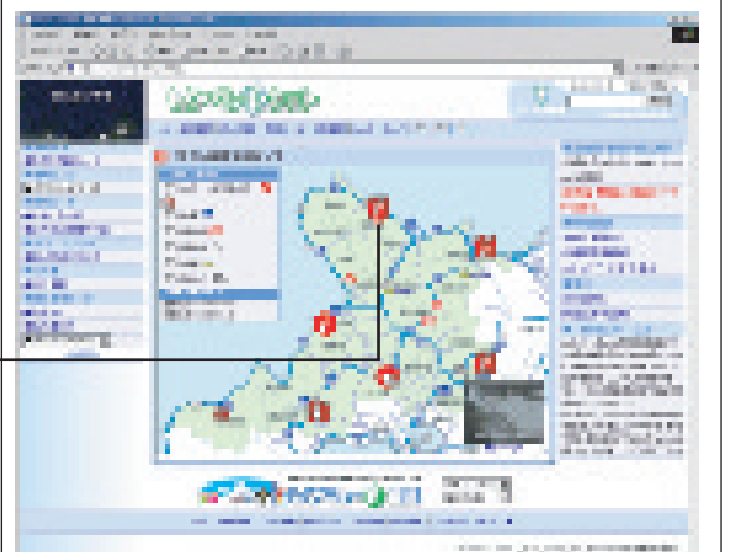
後志7つのセンターのライブ映像をみることができます。



後志道路情報

後志管内冬道情報がヘッドラインで表示されます。「ヘッドライン」からは各地が発信する道路情報ページへ、しりべしマップで全域チェックのアイコンからは、「しりべしふゆみち情報マップ」へ移動します。

しりべしふゆみち情報マップ



地域から冬道情報が発信されたときは、赤い「アイコン」がマップ上に表示されます。ただし、変わりやすい冬の道路情報のため、提供される情報は「4時間限定」で公開されます。

その他にも、
・道路規制情報 ・道路気象情報
・峠の情報 ・気象情報(注意報・警報) など、
後志を走行する際に必要な情報も全てマップ上に表示されます。

後志各地からの冬道情報提供ページ



冬道実験で提供する道路情報は・・・

冬道実験で提供する道路情報は、国や北海道が提供している「公的な情報」ではありません。後志地域の一人ひとりのホスピタリティ精神により、後志を移動する方々へ少しでもお役に立てるよう取り組んでいるものです。そのため、提供する道路情報は地域の人が見たり聞いたりした「生の道路情報」であり、あくまで参考情報としてご利用いただくようお願いします。

くれぐれも安全運転で、冬の後志をお楽しみください。



第2回iセンター交流会開催

第2回iセンター交流会が、11月11日～12日の2日間にわたり黒松内町で開催されました。2回目となった今回は、iセンタースタッフの他にも、真狩村、寿都町、京極町の参加を得て開催。「より多くの観光客に立ち寄ってもらう観光案内所となるために、スタッフ自らできることを考える」をテーマに、黒松内iセンターの現地視察、研修会、黒松内町内の観光施設見学の大きく3つのプログラムを開催しました。

現地視察

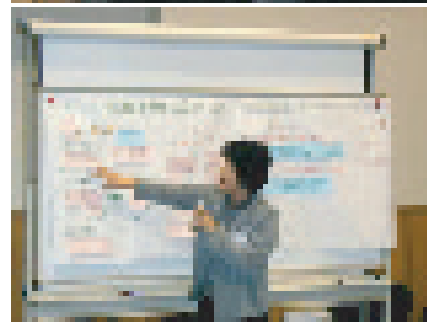
集合場所の道の駅「トワ・ヴェール」に集まった参加者らは、黒松内ブナの里振興公社マネージャーの佐藤さんから、道の駅の概要とともに、ここでの案内業務についての説明を受けました。



講習会(歌才自然の家)

歌才自然の家に会場を移した講習会では、まずワークショップを開催。「実験を通して感じたことを整理しよう」「スタッフ自らできることを考えよう」をサブテーマに活発な意見交換が行われました。

一つ目の「実験を通して感じたこと」では、iネットとiセンターそれぞれについて、良かった点、反省点について整理しました。まずiネットについては、「後志を一体としてみるような認識が生まれた」「自分の住むマチの良さを別の視点で見直すきっかけとなった」といった意見があげられた反面、「観光客が本当に求めている情報と提供している情報にズレ(商業情報がない等)がある」「通信員(情報員)体制が構築されていないため地域だよりの更新がままならない」等の意見があげられました。一方、iセンターについては、「スタッフの目線で現場(観光案内所や道の駅)を見る機会が増えた」「スタッフ間の連携が図られ電話での問い合わせもしやすくなった」など、iセンターの開設によりスタッフの意識啓発やネットワーク機能が強化されたと評価されているものの、「利用する観光客や地域住民にとってiセンターの認識はまだまだ少ない」等の反省点があげられました。



二つ目の「スタッフ自らできることを考えよう」では、「みんなで情報提供をしてくれる人材を集める」「自らも旅行し情報収集を行う」など、「もっと自分の住む地域やマチを知ることからはじめる」ことや、iネット・iセンターを観光客や地域に知ってもらうために「住民説明会の開催」「iネット学習会の開催」「商工会等のホームページにもiネットのバナーをはってもらう」など、これから取り組むべき目標について様々なアイデアがあげられました。

ワークショップに引き続き、画像講習会を開催。実験ワーキンググループの房間さんを講師に、地域だより作成の際の基本的な考え方や画像処理の方法についての技術講習を行いました。



黒松内町内観光施設見学会

2日目の町内観光施設見学では、オートキャンプ場「ルピック」「iセンター」「トワ・ヴェール」を見学。各施設とも担当者の方から丁寧な説明をしていただきました。参加された皆さんが、黒松内町のまちづくりの概要や方向性を知る上でも充実した見学会となりました。

iセンター以外の町や村にもパソコンが設置されています

7つのiセンター以外の町や村にも、広報用としてiネットの閲覧できるパソコンが設置されています。皆さん、お近くにお出かけの際には、ぜひ一度立ち寄ってみてください。設置場所は、それぞれの町や村で異なりますが、観光施設や温泉、役場内ロビーなどに設置されていますので、見学や休憩をかねていかがですか？ 新たな発見があること、きっと間違いなしです。

なお、施設により定休日や営業時間が異なります。おでかけの際には、事前にご確認ください。

お知らせ:「地域の声」は、今回はお休みします。

町村名	施設名	連絡先
寿都町	寿都町総合文化センター「ウイズコム」	0136-62-2100
真狩村	真狩フラワーセンター	0136-48-2007
京極町	名水プラザ	0136-42-2292
倶知安町	サンスポーツランドくっちゃん	0136-23-3220
共和町	共和町役場	0135-73-2011
泊村	泊村役場	0135-75-2101
古平町	古平町役場	0135-42-2181
仁木町	農村公園フルーツパークにき	0135-32-3500
赤井川村	赤井川村保養センター(赤井川温泉)	0135-34-6441



